



## 文化財保護の活動

### ～応法・猪子谷単室 石炭窯の整備～

有田町には多くの窯跡が所在しているのは、広く周知のことかと思えます。そして応法地区にも、江戸時代から登り窯が築かれ、窯業が盛んだったことが、これまでの発掘調査などから分かっています。この地区で操業していた登り窯には、「掛の谷窯跡」「窯の谷窯跡」「弥源次窯跡」があり、1650年代後半頃に築かれ、掛の谷窯跡と弥源次窯跡は17世紀中に廃窯となりましたが、窯の谷窯跡は「応法山登」の名称で、近代まで操業が続きました。また、今でもこの地区では、煙突の立つ町並みが残り、窯業地としての風情を垣間見ることが出来ます。

しかし、今回紹介する窯は、江戸時代の窯跡ではなく、「応法・猪子谷単室石炭窯跡」という、明治から大正初期頃に応法地区の窯焼きの有志の出資によって築かれた窯です。当初は、共同の窯として利用されていましたが、後に個人所有となり、戦後には廃窯となりました。

窯の構造は、「倒焰式単室陶磁器焼成窯」と呼ばれる本体と、地下の煙道で繋がった高さ約1.2mの煙突で構成されています。窯本体の焼成室には東西各3か所の焚口と、北側に2か所の出入口が設けられています。焼成室の床は横幅約3.5m、奥行約4.6mの長方形で、床に通焰孔がずらりとあけられています。当初は薪を燃料として使用していましたが、そのうち石炭を使用するようになったといえます。

ちなみにこの倒焰式窯とは、窯床上に並べた製品の間を通して直接炎が上室へと抜けていく直焰式の登り窯とは異なり、両側の焚き口から入った炎が窯床の両端の通焰孔から天井部まで吹き上がり、ぐるっと回って製品を包み込んで、再び床に並んだ通焰孔を通して床下の煙道へと抜ける熱効率に優れた構造で、有田の場合は明治時代にヨーロッパの築窯技術から学びました。



補修後の煙突の状況（奥側に見えるのが窯本体）

この窯は、平成10年（1998）10月21日に有田町の史跡に指定された当時は、窯本体に覆屋はなく野ざらしの状態でした。そのため、風雨にさらされ劣化が激しくなったため、平成20年に本体の補修や覆屋の設置を行っています。しかし、近年では隣接する煙突にも、ひび割れなどが目立ってきたことから、昨年補修工事を実施しました。

方法としては、煙突の崩壊や倒壊を防ぐため、四角い煙突の四隅を、断面L字形の上下方向に長い金具で挟んで補強し、等間隔で四角枠の金具で締め上げて固定しました。ひび割れについてもセメントで隙間を埋めていますが、景観に配慮して、金具及び隙間埋め材もレンガに近い目立たない色に着色しています。

町内には、すでに現存する近代の窯はほぼありませんので、有田の窯業史の一コマを伝えるこの窯を、これからも大切に保存していきたいと思えます。（伊達）

皿 季刊 山

No.149

春  
2026

有田町歴史民俗資料館・館報

平成八年七月十九日

# 「世界焔の博覧会」開幕。

87日間にわたる夢と感動のドラマがスタート。

昭和七年七月十四日

重要無形文化財保持者(人間国宝)で有田町名誉町民の井上萬二さんが亡くなる。享年九十六歳。

昭和三年 四月 有田町の国道拡張工事に着工。

昭和五年 六月十三日 佐賀県第一窯業試験場落成。

昭和二十年 二月二十日

有田焼の一銭陶貨製造はじまる。

令和三年 六月九日

十人のランナーによる東京2020オリンピックの聖火リレーが行われ、有田町内を完走。

昭和五十二年十一月三十日 国見有料道路開通。

大正天皇が崩御し、皇太子が即位。

# 昭和と改元。

大正十五年十二月二十五日

昭和二十八年 五月六日 大山村・曲川村の共同で共立病院が開院。

昭和四年 二月十四日

有田銀行と協力銀行とが合併して新しく有田銀行になる。

令和二年 四月二十九日～五月五日 新型コロナウイルスの影響で有田陶器市・有田国際陶磁展中止。

平成十二年 五月二十五日

ありのままの棚田を生かした体験型園遊会として、西有田町園遊会施設がオープン。町民に自然との触れ合いの場や、余暇の場を提供することともに、地域産業として都市住民との交流拠点として整備。

昭和五十四年 二月九日

有田町とドイツ民主共和国(東ドイツ)のマイセン市と姉妹都市協定調印。

## 令和7年度企画展

# アリタの記憶

昭和二十三年 九月十一日 大水害。

## ～昭和・平成・令和の100年

**会期** 令和8年2月28日(土)～4月5日(日)  
**会場** 有田町歴史民俗資料館 東館  
**入館料** 入館無料、会期中無休

平成十八年 三月一日 旧有田町と旧西有田町が合併して「有田町」が新しく誕生。人口2万2,268人、面積65.8km<sup>2</sup>でスタート。

昭和六十二年 四月一日 第3セクター 松浦鉄道が始動。蔵宿駅で開業記念式典。

昭和三十一年 一月二日 有田町が有田地区の南川・木下・南川・長山、上南川・山崎の四地区が合併、有田町として誕生。

平成十六年 七月 美空ひばりの「チロリン節」がCDとして再リリースされる。全国のひばりファンから注文がくる。

昭和六十年 三月二十八日

龍門の清水、「名水百選」に選定。

平成二年 六月 「田植唄アジアフェスティバル'90」開催。

令和四年 七月二十五日 第一〇四回全国高等学校野球選手権大会佐賀大会で、有田工業高校が九年ぶり二回目の優勝。  
平成二十八年 十月二十五日 「日本磁器誕生・有田焼創業四〇〇年」の式典を焔の博覧会会場で開催。

## 春夏連続甲子園出場。

平成十六年 三月十日 第十六回伊万里・西松浦地区任意合併協議会にて西有田町から出された「任意合併協議会追合議」を受理。一市一町で協議と実現すること。

平成十五年 四月二十九日～五月五日 有田陶器市が「ついに百回」を迎えた。目標をはるかに上回る百三十二万人の人出と四十二億円の売上を記録し、文字どおり史上最高の盛り上がりを見せた。

問合せ

有田町歴史民俗資料館

佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目4番1号 TEL 0955-43-2678  
URL <https://www.town.arita.lg.jp/rekishi/>

## 令和7年度企画展 アリタの記憶～昭和・平成・令和の100年 開催中!

令和7年（2025）は、昭和元年（1926）から数えて100年目、「昭和100年」にあたる年でした。そのため、皆さんも全国各地で「昭和100年」に関する展示やイベントなどが開催されているのを目にしたことでしょう。

有田町でも令和8年2月28日から4月5日の期間に、有田町歴史民俗資料館東館（泉山）にて「昭和100年」に関する企画展を開催しています。その内容について、お知らせしたいと思います。

### 昭和～激動の時代

このコーナーでは、「昭和」のはじまりや、「昭和」という激動の時代をどのように有田の人々が生き抜いたのか、戦争や災害に翻弄されつつも復興を果たし、未来へと希望を繋いだ姿を資料と共に紹介しています。

前回の館報で紹介した「6年の記録」の巻物や西地区に残された千人針などの戦争資料をはじめ、昭和23年、42年の水害関係の資料、さらに大正15年（昭和元年）12月25日の有田町役場日誌の記述など、昭和の始まりの日のことも紹介しています。

### 平成～安定を求めた時代

「平成」に入ると、バブル崩壊から一気に「不況」の波が訪れます。このような時代、人々は上昇より安定を求めるようになりますが、それまでの画一化から個性の時代へと大きく転換したことで、地域の特色を見据えたまちづくり活動が活発に行われました。

ここでは「田植唄アジアフェスティバル」や「世界焔の博覧会」といったイベント関連の資料を中心に、有田の町づくりの記憶を辿ります。



### 令和～変革の時代

新しい時代の幕開けとなる「令和」は新型コロナウイルスの蔓延によって、社会生活に著しい変化が起きました。またAIなども登場し「昭和・平成的な価値観」から持続可能な社会（SDGs）やワークタイムバランスなどが重視される変革の時代です。

まだ始まったばかりの「令和」が、どのような時代になるかはこれからの私達の歩み次第です。

展示会場は、資料と共に100年分の年表パネルを展示しています。自分や家族の生まれ年に何が起こったのか、ぜひ調べてみて下さい。また、どのような時代だったかイメージしやすいように、当時の流行語や時事もキーワードとして一緒に載せています。

また、「昭和写真館」というコーナーで、少しではありますが、昭和初期の有田の様相が分かる写真資料も展示しています。

有田町が歩んできたここ100年の記憶を、皆さんにご紹介することで、過去を振り返り、まさに変革を迎えつつある令和という時代をどのように生き抜くか、これからの未来を考えるひと時にしていただければと願っています。

会期中は無休・無料となっています。どうぞ「有田の100年の記憶」を見にきて下さい。

### ◎ 雛人形を展示しています ◎

2月4日から、資料館エントランスで雛人形を展示しています。有田町内に雛人形を展示しているところはたくさんありますが、その多くがやきもののお雛様です。しかし当館のお雛様は、昭和初期ごろ、町内の幼稚園や保育園で飾られていた、古いお雛様です。

今では珍しくなった「御殿飾り」という雛人形も展示しています。

『有田雛のやきものまつり』は3月8日で終了しましたが、当館のお雛様は企画展の間展示しています（4月5日まで）。この期間にぜひご覧下さい。



## 第72回文化財防火デー開催！

昭和24年(1949)1月26日に、修復中の奈良の法隆寺金堂から出火した火災によって、金堂内の壁画の大半が焼損してしまいました。世界的な文化遺産が被災したことで、この日を「文化財防火デー」と定め、全国的な防火運動が展開されています。

有田町においても、1月25日(日)に、佐賀県の指定文化財「色絵龍鳳凰文蓋付大壺」が展示公開されている、原明地区のチャイナ・オン・ザ・パークのギャラリー忠次館で、火災消火等の訓練を実施しました。

今回の消火訓練は、展示施設給湯室内で漏電による火災が発生という想定で実施しました。火災の発見者による初期消火および通報訓練、施設館内からの避難訓練。そして、通報を受けた消防署員や地元消防団が現場に急行し、放水による消火訓練が行われました。

その後、消防署員指導の下、地元住民参加の消火器取り扱い訓練など、火災等の発生時に欠かせない訓練をしました。最後に、町文化財課職員により防火対象の重要文化財の解説を行い、今年の文化財防火デー総合訓練は終了しました。



放水訓練の様子

★何より災害が起こらないこと一番ですが、大切な文化財を次の世代へ伝えていくため、万が一発生した場合でも、冷静に対処できるように、日ごろからシミュレーションして備えるための大切な訓練です。



職員による対象文化財の説明

## お仕事紹介 ～資料館(西館)案内～

1月～2月にかけて、有田町内3校(曲川小学校・中部小学校・大山小学校)の3年生の子供たちが、有田町歴史民俗資料館西館の見学・学習に來ました。

西館では、西地区で見つかった石器や昔の人が使っていた農具や民具を主体に展示しており、館自体は普段は施設見学依頼がないと開館していません。

生徒の皆さんは、見慣れないものや珍しいもの、まだ自宅にあるものなど、展示品に興味津々の様子で、楽しい時間を過ごすことができました。

また、昨年11月には有田小学校も見学に訪れたことで、今年度は、町内の小学校がすべて見学にきたことになり、文化財課職員(学芸員)としては、町の歴史の一端に触れてもらえたことに喜びを感じます。将来を担う子供たちに、有田の文化財への関心や郷土愛が育まれていくことに期待したいです。



曲川小学校3年生の西館見学



大山小学校3年生の西館見学

## 季刊『皿山』

通巻149号(令和8年3月11日)

編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目4-1

☎ 0955-43-2678 FAX 0955-43-4185

URI: <https://www.town.arita.lg.jp/rekishu/>